

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2009年度
Aコース（企画事業・組織開発助成コース） 助成事業報告書

2010年4月27日

団体名（ふりがな） （特活）みやぎ発達障害サポートネット
事業名 「虹っ子応援隊」育ち合い事業
助成金を使って行った事業について、記述してください。 （活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください） 1. 児童デイサービス事業コンサルテーション 別紙1 （環境・課題設定等療育内容の分析・評価） 協力者：札幌市自閉症・発達障がい者支援センター 加藤潔氏 2. 就労移行支援事業プログラム構築アドバイス 別紙2 協力者：石狩市就労移行支援事業所「あるば」大澤隆則氏 3. 各種スキルアップセミナー（発達障害児療育知識・技法習得）別紙3 協力者：北海道大学大学院教授 田中康雄氏 京都市児童福祉センター 門 眞一郎氏 其々の事業に関する当日の様子は別紙1～3を参照。
今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など） 本事業は、当法人の組織開発を目的に企画/申請をさせて頂いたため、直接他の団体との協働はありませんでした。 ボランティアの参加という視点では「発達障害者メンター」は全員ボランティアの方々です。人数等は別紙3 2010年2月14日の詳細を参照ください。
当初の事業目的はどの程度達成できましたか ●申請書に記載した事業目的 「夢ファンド」の助成も頂き継続してきた「発達障害者メンター養成講座」は、今期で3年目を迎え、100名に近いメンター初級認定者が排出される予定です。このメンター初級認定者を中心に、さらにブラッシュアップされた応援者の集団（「虹っ子応援隊」）を構築し、療育メンター10名・就労等成人本人と家族の支援に関わるライフサポートメンター10名を排出することを目標にします。 幼少時期から成人期に至るライフステージで、一貫した支援システム構築の基軸となる人材が確保されることで、当団体のミッションである「発達障害者と家族の『あったらいいな』の実現」が加速することが期待されます。 ●目的の達成度（自己評価） 助成を頂けたことで、児童デイサービス事業所のコンサルテーションを受けることが叶いました。この成果は、さらなる子どもたちの「安心と安定」を願って行った事業所の「再構造化」が実現し、利用率アップに貢献しました。指導スタッフも、指導の振り返りと共にスキルアップに繋がりました。

また具体的な支援方法を学ぶ機会に、参加費補てんをすることで、スタッフの多くが参加しやすくなり、情報の共有が叶いました。

さらに「メンター」同士が学び合いと共に交流を図る機会を得ることが出来、連帯感の醸成が出来ました。

●達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

事業所本体の経営的力不足のため「就労移行支援事業」を具体的に実現することは今年度実現しませんでした、そのための予備知識/技術/支援方法を習得することは叶いませんでした。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか

心理や教育の専門家の少ない当法人ですが「当事者」としての視点を大切に活動を続けていました。また日々追われるようにして運営をしてきていましたので、知恵や技術の未熟さに対する「言訳」のようなものも見え隠れし始めていました。こうした課題に気づき始めた時期に、「コンサルテーション」を受けることが出来たことで、当法人が本来「大切」にしていかなければならないことを改めて共有できたことはとても大きな成果でした。

「発達障害」に特化して支援システムが少ない当地域にとって、より深く「特性」を理解し支援力のある人材が増えていくためには、本事業の成果は大きく、他の事業所に対しての刺激を与えることにも繋がりました。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか

「当事者」としての母たちを活動のための人材の中心として据えてきたことは、大きな意義を持ってきたことであるとの自負はあるものの、専門性や「仕事」としての役割感などを強く求めていくことには相当の制約が発生することが明確になりつつあります。組織が大きくなってきている時期だけに、「人材」に対する長期展望を持つことが課題です。

この課題解決のためには、「発達障害児・者支援」の魅力や、障害児教育や福祉を学ぶ学生に伝え、経験への機会を提供すること。それと並行して「職業」として選択する機会・事業所の経営安定による雇用体制の整備が必要かと考えます。さらに専門性のある職員を育てるための知識と技術の蓄積もさらに努力が必要かと考えます。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。また、その際に必要なものは何ですか

コンサルテーションの機会を定期的に変現し、常に現状に甘んじず昨日より今日・今日より明日へと支援力を向上させていくための意識を共有できる専門家集団へと成熟していき、一人でも多くの発達障害のご本人とご家族の「あったらいいね」と願うことを叶える組織へと発展していきたいと思ひます。

そのためには、「自ら」行動し社会変革を担うという強い意志が必要だと考えています。

また、こうした諦めない挑戦を続けていくためには、普通に街に暮らす人々からの応援を得られるための信頼構築を目的とした情報開示力の強化と、御ファンドのような資金援助も必要かと思ひます。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ろうきん地域貢献ファンド助成金	300,000	
自己負担金	101,264	法人研修費
合計	401,264	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
講師謝金	230,000	加藤潔/門眞一郎/田中康雄
療育スタッフ受講費補助	120,000	5,000×10人/5,000×14人
交通費	43,700	札幌-仙台往復
事務消耗品	7,564	資料作成用消耗品
合計	401,264	

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

本事業の採択に深く感謝申し上げます。
本事業を通して学んだこと/感じたこと/振り返ったことを、必ず「次に」活かし当法人のミッションを遂行することでご恩返しをさせて頂きたいと存じます。
これからも見守っていただき励まして頂きたくお願い申し上げます。
本当に有難うございました。

別紙 1

初めてのコンサルテーション [2009年10月12日(月)]

昨日まで「エンパワメントセミナー」でお世話になった札幌の加藤先生に『虹っ子』のコンサルテーションをしていただきました。

連休中に参加して下さったスタッフには感謝しています。

移転から1年。利用して下さる方も増えてきた時だからこそ、子どもたちがこれまで以上に安心して通えるように。

先日来「場」の再構造化を提案し、それぞれが検討して下さっていました。

そこへ加藤先生の『眼』を通して、進化への道を探りました。

最後に「素敵な事業所です良ね？」

との問いかけに

「日本一素敵ですよ」とウカツ(?)にも反応して下さった加藤先生。

「字義通りに捉えますよ！」

の声に

「東日本一……東北一……」と少しずつトーンダウンしていく慌てぶりがとても素敵でした。

もちろんいつかは胸を張って「日本一！」と加藤先生も私たちも、利用者の皆さんにも納得していただけるための「第一歩」であったことだけは確かなことです。

今日のコンサルテーションは「ろうきんファンド」に採択していただいたことで叶いました。

サポートネットを応援して下さる方々がたくさんいることへの感謝を忘れずに、明日からまたコツコツと励んで行きます。

別紙 2

ユニバーサルランジッション [2009年06月26日(金)]

札幌に来ています。

少しは涼しいかなと思いましたが、全然…札幌も暑い一日でした。

成人期の方への支援について、三月に「出稽古」でお世話になった「あるば」の大澤さんから再履修する必要があったことと、アンパーマー女史の「親と専門家との協働」・「ペアレントメンターシステム」のセミナーを受講するためです。

何度か来ている札幌なので、JRと地下鉄での移動を試みてみました。

その土地に慣れていない人にとって、「乗り継ぎ」がかたり高いハードルであることを体験しています。

今は公共機関では「サイン」に工夫が施されています。

でもやっぱり不安もあるし、解りにくいのです。

私は一応定型発達のつもりだし、「尋ねる」という術は持っています。

でもこれが自閉症、発達障害の人だったらどうでしょう…

「大変」かもしれません。

用意周到準備をしても、上手くいかないことがあるに違いありません。

こうした生活をしていく上で欠かせない知恵の中にも「ユニバーサル」という視点が不可欠なことをし旅先で感じています。

別紙 3

下記セミナーに療育スタッフ10名が参加。

目的と手段を取り違えない [2009年11月22日(日)]

「メンター養成講座2009」の4回目は、京都児童福祉センターから門眞一郎先生にお越しいただき「視覚的支援の意義と実際」を、丸一日たっぷりと学ばせていただきました。本当に山盛りの実践例と、その裏打ちとなる原理・理念を丁寧に伝えていただきましたことに深く感謝しています。

心に届き、振り返りのきっかけになったことに
『「構造化の目的と手段」を整理して下さった中で指摘して下さった
「目的：構造を理解してもらう(構造とは、場面の〈意味〉と〈見通し〉)」
と

「手段：構造を明確化するために使う手立てが〈視覚支援〉」

を取り違えてはならない!』

ということがあります。

当たり前のことだけど、緊張感を失った時に見逃しがちなことでもあると感じました。

“ハツ”とする一言一言に“今なぜこの(学びの)場にいるのか…”ということを改めて深く考えました。

門先生がサラッとおっしゃった言葉を受け流すことなく、「大切」にしていくべきことを確認し続けたいと思っています。

そのためには、昨日も今日も

「学び続けること」を先生方から求められたと思います。

また、この「目的と手段を取り違えない」といふことは、法人として事業を運営して行くためにも立ち返らなければならない視点だと思っています。

「あったらいいな」と願う日々の暮らしを支えられるように、支援の質と力を高めていくことしかありません。

つまりいたり、ざわついた時、立ち戻るのは「ミッション」しかないのです。

人の縁にも恵まれて叶っている「学ぶ」チャンスを、これからも大切にしていきたいと思います。

長い一日を共に過ごしていただいた門先生と、ご参加の皆様に改めて感謝申し上げます。

下記セミナーに発達障害者メンター登録者14名参加

心豊かなひととき [2010年02月14日(日)]

フォーラムでは、田中先生の温かなお人柄と、率直に共に悩みを分かち合おうとくださる田中イズムにたっぷり浸りました。

今日もたくさんのキーワードと共に、ご本人たちと対峙する時の「マナー」を教えていただきました。

会場内にたくさんのサポートネットのお母さん・お父さんたちがいてくださって、🌸さん発案の案内チラシを会報に入れて本当に良かったと思いました。

また、同じ立場の保護者の方が神奈川と島根からお運びくださり、たくさんの知恵もいただきました。

仙台にこの企画を持ってきてくださったNHK厚生文化事業団の皆様と、仙台放送局の皆様感謝申し上げます。

さて、フォーラム終了後は、お楽しみの「田中先生を囲む会」。



若林文化センター1階の『ビストロジャジャ』さんを貸し切りにしていただいて、メンターを中心にたった14人で2時間強。タップリと田中先生を「独占」させていただきました。

美味しいお料理と共に、心豊かな時間を過ごさせていただきました。

シャイな田中先生ですが、時の経過と共に一人一人の参加者の言葉にも耳を傾けて、時にはうなづき、時には深く考えて下さり、丁寧に丁寧に一人一人の立場を守りながらアドバイスを下さいました。

話が尽きず、飛行場にはかなりギリギリの到着となってしまいましたが、車中でも共感し合える話題がテンコ盛り。

私自身も「認められる」時を持ち、“また明日から頑張れる”って幸せに満たされています。

田中先生は近々また仙台にお越しのご予定だそうです。
公開できる時は改めてお知らせをさせていただきますね。